

学級活動（１）指導案

５年１組３２名 指導者 永田 佳子

本実践では、以下の検証を行うものである。

- 論点が分かりやすいように視覚的に工夫した板書は、集団決定を促すものとして効果的であったか。
- 司会者グループを含めた全ての子どもが常に板書を確認できる座席の配置は、話し合う中での折り合いや合意形成をする上で効果的であったか。

1 議題 世界に一つだけの学級の歌を作ろう。(学級活動(1)－ウ)

2 子どもの実態

(1) 子どもの学校生活における実態

- 本学級の子どもは、学級編成から1か月余りということもあり、学級の支持的風土はまだ十分に形成されているとは言えない。しかし、帰りの会では、「今日のきらり」として、よい行いや頑張っていたことなどを発表する姿が見られる。また、男女関係なくグループを作ることにより、男女を意識しながらも、互いのよさや違いに気付き、助け合う姿が見られる。体育科のフォークダンスでは、最初は拒むものの、男女で手をつなぎ楽しく踊ることができた。
- グループでは自分の意見を積極的に出し合い、話し合うことができる子どもが多い。しかし、全体での発表となると、自分の考えに自信がもてず、声も小さく、挙手につながらない子どももいる。
- 学校行事などにおいて、失敗や喜びを友達と共に経験していくにつれて、団結心が生まれ、学級のよさに気付き、集団生活への意欲が高まりつつある。
- 自分に与えられた役割を最後まで責任をもって行わなければいけないと分かっている子どもが多い。しかし、自分の役割を十分理解できていないために、当番活動などを忘れてしまったり、実践力が弱かったりする子どももいる。

(2) これまでの学級活動の取組

これまでに取り組んできた議題

- ・ 学級目標のサブ目標を考えよう。
- ・ 3つの喜びがある学級の係を決めよう。
- ・ 世界に一つだけの学級のキャラクターを作ろう。

本学級では、学級活動における話し合いを「学級D51会議」と命名した。これは、力強い走りをするD51（デゴイチ）系蒸気機関車のように、みんなの熱い気持ちを合わせて前に進んでいきたいという願いを込めたものである。

司会者グループは、輪番で構成している。「なすことによって学ぶ」学級活動において、司会者グループを全員が経験することで、司会者グループの大変さや大切さが分かり、フロアでも進行を助ける発言などとして生きてくることが期待されるからである。また、活動の見通しをもたせるために4月に分担表を作成した。

これまでの学級会では、「よりよい意見とは」を確認しながら、学級会で増やしたい発言の種類を例示して、多様な意見を生かしたよりよい集団決定のできる学級会をめざすようにしてきている。

議題の決定では、議題選定の結果を全員に図り、決定（確認）し、第1回計画委員会では、提案理由を練り上げ、柱を決めた。その後、学級会ノートを配布し、話し合いの柱ごとに自分の考えを記入して提出させた。その際、比べ合うときに必要な7つのチェック項目を提示し、事前に自分の意見と照らし合わせるようにした。第2回計画委員会では、回収した学級会ノートの意見の集約を行い、分類して話し合いの論点を明らかにし、進行計画、板書計画を立てた。担任は、励ましの言葉を書いて、子どもに伝え、自信をもたせることで意欲を高められるようにしてきている。そして、第3回計画委員会では、本番のシミュレーションを行っている。

実践段階では、自分の役割を果たそうと、友達と協力しながら活動する姿が見られる。しかし、自分の役割の具体的な見通しがもてずに活動が滞ったり、頻繁かつ継続的に実践しなければならないこ

とに関しては、意欲が持続しなかったりして、担任から助言されることも多い。「学級会で最も大切なことは、決定したことを全員が協力して実践すること」であることを確認して、うまくいかないことがあることも視野に入れながら、集団決定したことを実践することにより、個人の達成感を味わわせ、集団としての学級のまとまりを高めてきたい。

(3) 話し合い活動における課題やめざす方向

本学級の子どもは、高学年として昨年以上に、学級をよりよくより楽しくしたいという願いをもっていている。よって、議題を知らせると、挙手はしなくとも、自分なりの考えを口々につぶやく姿が見られる。

しかしながら、学級会では、「1回は手を挙げて発表したい。」と発言の内容よりも、発言回数に目標を置いている子どもも少なくない。

「出し合う」場面では、理由を述べるものの、自分の思いが浅く具体例を挙げて説明するなど説得力のある意見はまだ少ない。また、「比べ合う」場面では、自分の思いが先行して、発言がつながらなかったり、整理して板書をするのができず、論点がずれてしまったりすることがある。「決定する」場面では、折衷案は出てくるもののだれもが納得できるような新しいものを作っていくまでには至っていない。

そこで、朝の会や帰りの会でミニ学級会を行い、話し合いの経験を積む機会や、教科等の学習でも3～6人の少人数での話し合い活動を設けて、「場面リーダー」を決め、意見を「出し合う」「比べ合う」「まとめる・決定する」といった一連の活動を行っている。小集団での話し合い方のルールを身に付けることに加え、何でも意見を言い合える人間関係づくりに努めさせることで、意見を述べる達成感を味わわせていきたい。

また、高学年の学級活動の内容「信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる」というキーワードに示されているように、話し合いは勝ち負けではなく、一人でも多くの人の考えを生かしながら答えを見つける時間であることを意識させ、集団決定の場では、安易な多数決にならないようにしたい。そして、「よりよい意見とは何か」を繰り返し指導し、子どもの発言を称賛したり、「みんなもよくて自分もよい方法はないか」と助言したりして、折衷案だけでなく、練り上げる話し合いへと質的変換を図っていきたい。加えて、議題について話し合い、みんなで作って行く中で、自分たちの活動を振り返り、お互いの成長を確かめ合うようにしたい。

3 議題について

議題については、議題箱に入った議題提案カードから選定するのが本来であるが、新学年の初期段階であるため、問題を集める呼び掛けを行い、全員に議題カードの書き方を指導した。その結果、①「学級のキャラクターをつくろう」、②「学級の歌をつくろう」、③「みんなで遊ぶ日の計画を立てよう」、④「席替えをしよう」の4つが挙がった。議題選定についても、全員で話し合い（計画委員会）を行い、4つの基準に沿って議題を選定した。優先順位や経験から、まず、総合的な学習の時間や生活科の学習で全校で行っているイベント祭り（あさひ子フェスティバル）で馴染みのある①について話し合い、②を今回の学級会で、③については、まずは遊び係が中心になって進めてもらい、④については、学習にも関係があるので、担任に任せることになった。

4 指導に当たって

事前の活動では、本当に学級の歌を作りたいのか、全員の意志を確認し、課題を共有化しておく。また、これまで学級の歌を作った経験の実態を把握し、昨年度の5年生の学級の歌のVTRを見せることで、イメージをふくらませて見通しをもたせたい。加えて、「何のために学級の歌を作るのか。」といった学級の歌を作る目的をはっきりさせることによって、学級の歌の内容も変わってくることに気付かせておきたい。計画委員会では、前回の「学級のキャラクターを作ろう」との進め方を参考に、意見を比べる視点を明らかにした視覚的板書や焦点化した進行について事前に指導し、シミュレーションを行っておく。

話し合いでは、意欲的に参加できるようにするために、全体のめあてと共に、個人のめあてを「話し合いのものさし」から選ばせておく。練り上げる話し合いにするために、板書を工夫して論点が分かりやすいようにしたい。また、友達の意見を確かめ、発言を確認してつなげていけるようにするために、司会者グループを含めた全ての子どもが常に板書を確認できるような座席の配置を工夫したい。

事後の活動では、今後様々な自治的活動を促すために、完成目標日からタイムスケジュールを立てたり、係ごとに責任者を決めたりしたりして、できるだけ子ども主体で達成できるようにしたい。

5 第5学年及び第6学年の評価規準

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
事前	学級や学校の生活の充実と向上に関心をもったり、計画委員会の活動や話し合いの準備などに見通しをもって自主的に取り組もうとしている。	議題について自分の考えをもち、効率的な計画委員会の運営や話し合い活動計画について考え、準備している。	計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。
話し合い	共感的な態度で積極的に話し合おうとしている。	活動計画に基づき、よりよい学級や学校生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。	
事後	決定したことについて、見通しをもって自主的に準備や計画に取り組もうとしている。	自他の役割やどのように創意工夫するかなどを考え、信頼し支えながら実践している。	決定したことについて、みんなで効率的に実践することの意義や方法について理解している。

6 活動の流れ

		期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法〈 〉
事前の活動	問題発見・選定	4/10 4/11 4/16 5/1	○議題指導 ○計画委員会 ・議題選定 ・選定結果の報告 第2回学級会 (係活動を決め) 第3回学級会 (学級のキャラクター決め)	○問題を集める呼び掛けの一斉指導をする。 ○本当に学級の歌を作りたいのか、全員の意志を確認しておく。	関 学級・学校内の問題に気がつき、学級目標を達成するために進んで議題箱に議題を出している。〈観察〉 思 「議題選定の4つの規準」に照らし合わせながら協議し、議題を選定している。〈観察〉 知 議題提案日や回収日等を話し合い当日から逆算して考え、計画的・効率的な進め方を理解している。〈観察〉
	実施計画の作成	5/2 5/2	○第1回計画委員会 ・議題の確認 ・提案理由の話し合い ・話し合いの柱の設定 ・学級会黒板に計画を記入 ○帰りの会 ・学級の歌のビデオ視聴 ・曲を募る。	○何のために学級の歌をつくるのか、学級の歌作りの目的をはっきりさせておく。 ○学級の歌のイメージが広がるように、過去の学級の歌を紹介する。	思 司会者グループが中心となり、提案理由と話し合いの柱の整合性、時間設定などを考えて計画を立てている。〈観察〉

	取組の共同化	5/7 ～ 5/9 5/14 5/16	○第2回計画委員会 ・曲の選定 ○帰りの会 ・曲の決定、歌詞を考 えるように提案 ○第3回計画委員会 ・意見の集約 ・板書計画 ○第4回計画委員会 ・シミュレーション	○学級の意見を分類する ことで、話し合いを焦点 化させ、全体が分かる ように板書を可視化す る。	<input checked="" type="checkbox"/> 友達意見を事前に集約、 分類し話し合いの論点を明ら かにし、計画的な話し合いの 準備を進めている。〈観察〉 <input checked="" type="checkbox"/> 様々な立場の人のことを考 えた上での、自分の意見を 書いている。〈ノート〉
	(本時) 話し 合い	5/18	○活動の目標や目標達成 の方法・手段・役割分 担を話し合ったり、確 認したりする。	○話し合いを自主的に行わ せる手立て 30 ・発言の視点と教師から のアドバイス	※本時を参照
事後の活動	実践	5/21 5/22 ～29 5/30 6/1 ～8 6/11 6/14	○計画を作成する。 ○歌詞をまとめる。 ○みんなに披露する。 ○ふりつけを考える。 ○みんなに披露し、改善 点など意見交換をして 決定する。 ○完成。ビデオ撮影。	○完成目標から逆算して のタイムスケジュール と責任者を決めるよう にする。	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の役割を理解し、決め られた日程までの見通しを もって自主的に製作活動 を行っている。 〈活動の様子〉
	評価	6/15	○振り返り活動	○完成した歌を歌い、完 成までのあゆみを振り 返り、達成感と有用感 を味わえるようにす る。	<input checked="" type="checkbox"/> 活動を振り返り、反省した ことや学んだことを今後の 学級生活に生かそうとして いる。 〈生活ノート〉 <input checked="" type="checkbox"/> 友達同士で信頼し、支え合 って活動したことで、学級 の絆がさらに深まったり笑 顔あふれ活気に満ちた学級 になったりしていると感じ ている。 〈生活ノート〉

7 本時の活動

(1) 目 標

「学級目標の達成のために」という視点を持ちながら、学級の歌の取組について考え、論点からずれることなく話し合い、自治的に活動に取り組もうとする意欲をもつことができるようにする。

(2) 評価規準

- 共感的な態度で積極的に話し合おうとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- 活動計画に基づき、よりよい学級や学校生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。 【集団の一員としての思考・判断・実践】

(3) 指導に当たって

事前に、曲については、計画委員会でみんなの意見を集約し、替え歌にする曲をミニ学級会で決定しておく。また、その曲を帰りの会で歌うようにして、作詞への意欲を高め、曲のイメージをつかむ

ようにしておく。意欲をもって学級会に参加できるようにするために、サビの歌詞を中心に考えるように伝え、学級会ノートなどに書かせておき、司会者グループで把握しておく。

話し合いでは、全員により明確に話し合いの論点をつかませるために、収束するキーワードや条件を設定し、意識させながら話し合いができるように提示しておく。また、全文を板書するのではなく、要点をしぼり、発言者の意図が分かる程度に省略した文で書いたり、短冊等を書いて、それらを移動しながら、分類・整理をしたりできるようにしておく。加えて、友達の見意を確認し、自分の見意を整理して、集団決定へつなげるために、フロアだけでなく司会者グループも板書を確認しながら話し合いを進められるように司会者グループの席を板書が見える位置にする。

振り返りでは、「先生の話」で合意形成までの論点を意識した発言や折り合った見意を称賛し、「学級会で最も大切なことは、決定したことを全員が協力して実践すること。」であることを話し、実践への意欲付けを図るようにする。

(4) 本時の展開

— 31 —

第4回 5年1組「学級D51会議」 5月		
司会（竹下） 副司会（坂之上・瀬戸口） 記録（新川・小峯・重留）		
議 題 世界で一つしかない学級の歌を作ろう。		
提案理由 学級目標の達成に向けて、学級の歌を作って、朝の会や学級D51会議で歌ったら、元気いっぱい笑顔いっぱいのパワフルな学級に近づけると思ったから、この議題を提案しました。		
話し合いのめあて 「だれもが納得できる話し合いにしよう。」		
話し合いの流れ	予想される子どもの意識・姿	○ 手立て □めざす子どもの姿
1 はじめの言葉	・早く学級の歌を歌いたいな。	○ 発言に自信をもたせるために、発言が苦手な子どもには、学級会ノートに事前に励ましの言葉を添えておく。
2 歌「学級歌の曲」	・シミュレーションをしたけれど時間内に決まるか心配だな。	○ 学級歌作りへの意欲やイメージをもたせるために、原曲を歌うようにする。
3 司会者グループの紹介	・司会者グループで力を合わせて頑張ろうね。準備ができたから大丈夫だよ。	○ 一人一人の問題意識を高めるために、「なぜ学級の歌を作りたいのか」を話し合いの出発点である提案理由で確認する。
4 議題の確かめと提案理由の説明	・提案理由や話し合いのめあてに沿った話し合いをしよう。	○ 自分のめあても意識させるために、2名に発表してもらおう。
5 話し合いのめあてと柱の確かめ	・わたしのめあては、～だよ。	
6 先生の話	・みんなが納得する学級の歌にしたいな。	

<p>7 話し合い (1) どんな言葉を入れていくか。</p> <p>(2) どんな係が必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「5年1組」か「5の1」を入れたいな。 ・「D51」を入れて、汽車に関する言葉もいいな。 ・学級目標は入れるべきだよ。 ・みんなの名前を入れたらどう。 ・〇〇さんの意見と似ているのですが・・・。 ・みんなの考えを少しずつ合わせたらいいね。 ・みんなもよくて自分もいい方法は何かな。 ・□□□なら、いいよ。 ・納得できたかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画を考える係。 ・歌詞をよりよく考える係。 ・紙に書く係。 ・ふりつけを考える係。 ・だれがするのか。 ・みんなでしょうよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柱(1)では、歌詞を作りやすいようにするために、選んだ原曲の歌詞を掲示しておく。友達の意見を確かめ、発言を確認してつながれるようにするために、司会者グループを含めた全ての子どもが常に板書を確認できるような座席の配置にする。 ○ 柱(2)では、作成過程も学級目標の達成につながることに気付かせるために、これまでの活動の具体例を出して、考えさせる。 <p>関自分と同じ考えに、相づちをうっている。</p> <p>思司会者グループとフロアーが、今何が話題となっているのか、何が問題になっているのかを必要に応じて確認しながら話し合いを進めている。</p> <p>思出てきた意見に対して、提案理由・学級目標などの観点に照らし合わせて建設的な質問をし、多面的に意見を述べている。</p>
<p>8 決まったことの確認</p> <p>9 振り返り</p> <p>10 先生の話</p> <p>11 おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案理由や話し合いのめあてを考えながら、話し合いができたよ。 ・自分は納得できたよ。 ・〇〇さんは納得できたのかな。 ・完成までのスケジュールを考えるぞ。 ・次は、〇〇さんみたいな発言をしてみたいな。 ・心遣いをしながら活動していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 決定事項だけでなく合意形成までの過程についても振り返るようにする。 ○ 本時の話し合いを振り返らせるために、学級会ノートにめあての反省や感想を書く時間を設定する。 <p>思話し合いにおける自分のよさや課題を振り返っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いの取組がよかった子どもを称賛したり、実践に対する声掛けをしたりして、意欲の持続化を図る。 (称賛・承認・奨励)